

## 三越創業 350 周年 「千住博展」 —伝統と革新—

日本橋三越本店本館 6 階・美術特選画廊 23. 11. 22～12. 04



日本画家「千住博」(1958～)は、1995年のヴェネツィア・ビエンナーレで名誉賞を受賞するなど、日本画の新しい可能性と表現を確立している。

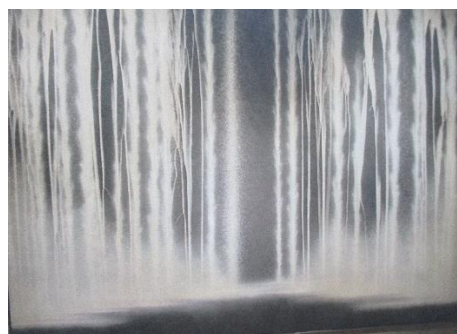
2022年に日本芸術院会員となり、国内外で活躍をしているが、今回三越創業350周年を《ウォーターフォール・オン・カラース》シリーズで飾っている。

滝内側から見た色彩に満ち溢れた現実世界を、赤、青、緑、茶、紫などの色で描いて、多様な色同志がハーモニーを奏で美しい世界が表現されている。

本展の核となるのは、コロナ禍によって世界的に広まった閉塞感の中、色彩の重要性にあらためて気づいたことから誕生した《ウォーターフォール・オン・カラース》シリーズは、滝が流れ落ちる動きに加えて、季節感を感じる色彩が強く主張されるもので、世界的に認められた画家の新境地とも言える。

出品内容は、「150号8点」「130号x3枚組」の大作は、壮大で華麗な色彩の世界を生み出している。そして「軸作品11点」は、東西の表具師に表具を依頼したもので、古い表装が1点もないため貴重な作品になっている。

今展のテーマは「伝統と革新」で、障壁画などの仕事などにおいて、日本の伝統的美へも果敢に挑戦してきた画伯の真骨頂が感じられる展示である。



千住博 《ウォーターフォール・オン・カラース》 2題